

人権なら

2024年7月1日

第163号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

山積する課題に向き合って

NPOなら人権情報センターが第24期総会

なら人権情報センターは6月15日、三宅町あざさ苑で第24期通常総会を開いた＝写真。



古川友則・理事長があいさつ。「組織の高齢化や脆弱化など、山積する課題に向き合い、新しい時代に相応しい展望を示していきたい」と協力を呼び掛けた。

地域で増え続ける生活相談とその支援活動

山下真・知事らの祝電・メッセージ紹介のあと、山添支局の富岡久能さんを議長に選出した。

議事に入り、2023年度の事業、決算、会計監査報告が提案され、承認。続いて、2024年度の活動方針、予算案が提案され、質疑を交わした。



質疑では、2人が発言。1人は、地域で生活相談が増えている。背景に経済格差が広がり、生活困窮家庭が増大。虐待やネグレクト、不登校も増えた。その支援を進めている。4月に施行した「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」を学習し、県に働きかける準備を進めていると。

ハンセン病問題に係る「菊池事件」再審支援を

もう1人は「共闘団体の取り組みへの積極的な参加」について、熊本県のハンセン病患者が1951年、差別・偏見によって不当逮捕され、憲法違反の密室裁判で、1962年に死刑執行された「菊池事件」の再審闘争支援を呼び掛けた。

アイヌの歴史と和人の課題

多原良子さんが講演で搾取と同化政策を批判

「アイヌの歴史と和人の課題を考える」と題した講演会が6月1日、桜井市立図書館であった＝写真。講師は先住民族アイヌの声実現！実行委員会代表、メノコモシモシ代表の多原良子さん（写真）。「先住民族アイヌのいまを考える会」と「NPO法人さくらい人権ネット」が主催した。



多原さんは、アイヌ民族が受けた搾取と同化政策に触れ、明治政府は蝦夷地を北海道とし、日本の一部とした。言語や生活習慣も禁止し、和風化を強制した。アイヌには財産の管理能力がないと決めつけ、土地私有や資産の権利を制限したと。

先住民族と位置づけも、その権利は認めない

また、自民党衆院議員杉田水脈が2023年9月7日、ブログに「チマチョゴリやアイヌ衣装のコスプレおばさんまで登場」「同じ空気を吸っているだけで気分が悪くなる」と掲載。札幌法務局はこれを「人権侵犯」と認定したと。



「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」(2019年)は、アイヌ民族を先住民族として位置付けたものの、その権利を認めていない。アイヌ民族は社会の偏見に屈せず、文化の伝承・保存に取り組んできた。

不当な差別的言動に対し、実効性のある措置が取れる法整備と、人権機関の設立が必要だと訴えた。

「わいわい食堂」で居場所づくり

6月の「みんなであそぼう会」に51人が集う

早いものであつという間に新年度となりました。進級、進学を迎え、新しい環境で頑張っている子どもたちのために、6月14日、三宅町あざさ苑をお借りして“みんなであそぼう会”の「わいわい食堂」を行いました。参加は小学生が18人、中学生が19人、高校生が4人、子どもサポーターとして大人10人の計51人でした。



今回は、夕ご飯にチキンカレーとシーチキンサラダ、フルーツヨーグルトを用意しました。大人3人が午前中から調理の準備をしました。今回のような形は3回目で、食堂の流れや過ごし方を理解している子どもたちが多くいましたが、初めて参加する子どももいました。

今回は、夕ご飯にチキンカレーとシーチキンサラダ、フルーツヨーグルトを用意しました。大人3人が午前中から調理の準備をしました。今回のような形は3回目で、食堂の流れや過ごし方を理解している子どもたちが多くいましたが、初めて参加する子どももいました。

楽しみにしてくれる子どもたちの姿が励みに

中学生たちは、「これ、しとくわ」と配膳などの役割を進んで担ってくれます。それを見て、「何かお手伝いすることない?」と言ってくれる小学生もいました。

カレーは人気メニューです。ほとんどの子どもたちがおかわりをしてくれます。食べたあとの片づけも子どもたち同士で声を掛け合う姿もありました。



ご飯を食べたあとは、和室でボードゲームやカードゲームを楽しむ子や、和室が手狭なので廊下のソファでおしゃべりを楽しんでいる高校生たちもいました。

いつも参加してくれるサポーターと仲良くなり、久しぶりを喜んでくれる小学生もいました。顔なじみの子どもや、友だちを連れてきてくれた子、兄弟姉妹の参加もあって、参加者の幅が少しずつ広がっています。

「わくわく食堂」を楽しみにしてくれる子どもたちの姿は本当に私たちの励みになっています。

(子どもの居場所づくりをつくろう会・山本薫)

ジェンダー正義を求めて

RAWAメンバーが全国8か所で講演と交流

RAWA(アフガニスタン女性革命協会)のメンバーが来日。6月15日、大阪で講演と交流の集いがあった。150人が参加。アフガンの厳しい現状を伝える話に耳を傾けた。RAWAと連帯する会が主催した。



現在のアフガンは2021年に復権したタリバーンが強権的支配を続ける。女性の自由への制限は深刻。教育や就労の機会が大きく制約されている。国連をはじめ、多くの人権団体が批判。是正を求めている。

タリバーンの復権で横行する凄まじい差別

安全上、本名を伏せた来日女性は、アフガンにおける女性に対する凄まじい差別の実態を語った。清末愛沙さんが通訳した。女性にとって過去の政権下も悪の状態。タリバーンの復権で刑務所のようになったと。

女性への抑圧、人権侵害が著しい。人間の尊厳が蔑ろにされ、逮捕や締め付けも。学校にも行けない。就労もできない。経済的にも苦しい。飢餓、栄養失調が広がっている。貧困で臓器を売る人もいるという。

RAWAの活動を収めた映像も流されたが、多くの部分は危険なため、公開されなかった。監視が強く、組織や仲間を守ることが第一なのだという。

抑圧される女性へ学校・識字教育に力を注ぐ

RAWAは1977年、後に暗殺された女性ミーナーが設立した団体。女性への抑圧が強いアフガンで民主主義、ジェンダー平等、人権などを求めて活動する。とくに、学校教育や識字教育に力を注いでいる。

連帯する会は結成20周年。講演会やニュースレターなどを通して支援の輪を広げ、現地での教育活動の支援に取り組んできた。今回、RAWAメンバーを招き、全国8か所でスピーキングツアーを実施した。

地域とつなぐ まちなかアート

NPO法人ならチャレンジが総会・講演

NPO法人ならチャレンジは6月9日、橿原市コンベンションルー

ムで総会、講演「暮らしの中のアート」を開催した。特別

支援学校生徒・卒業生のならチャレンジ「ひまわり」が、これらの取り組みの進行や運営を取り仕切った。

赤川義之・理事長があいさつ。障害のある若者と地域社会をつなぐ取り組み「きらり まちなかアート」をやりたいかった。描かれた絵から、絵が好きで、誰かのために一生懸命に描いたのがひしひし伝わってくると。



2組の親子が我が子の描く絵画について話

横山育恵さんと森安英憲さんのマリンバ&キーボード演奏が会場を盛り上げ、和ませた。

北口拓巳さんと佳美さん親子が話をした。佳美さんは、幼い頃の拓巳さんの描く絵は2人をつなげる言葉だった。拓巳さんの絵は遊びに行ったとき、心に残った場所を描いたもので、下絵に1~2か月、色付けに2、3日、掛かった。見てもらえると嬉しいと語った。

今西芽さんと奈保美さん親子も話をした。地元天川村で幼・小・中学のあと、大淀養護学校に通った。現在は下市町にある作業所に通っている。奈保美さんは、障害を隠すことは芽さんに失礼だと。絵は「センタングル」というパターンアート。細かく描くのが得意で、一つの作品に1年半掛かることもある技法だという。

取り組み終了のあと、参加者で記念撮影

このあと、奈良中央信用金庫の山田章生さんと、南奈良総合医療センターの井本麻喜さんが、「きらり まちなかアート」を通じた交流について感想を述べた。

最後に質問・意見交流を行い、閉会。参加者が集まり、記念撮影を行った＝写真。

飾りのない丸ごとの姿残す

問題の根深さを突き付ける映画「かづゑ的」

長島愛生園入所者の宮崎かづゑさんを撮った映画「かづゑ的」が公開中だ。「飾りのない丸ごとの姿を残す」という

かづゑさん。映画の最初に入浴の様子を映す。裸になり、失った足をさらす。「これがハンセン病を患った私の姿。私はこの病気とともに生きているんだよ」と。



“飾らないありのまま”のハンセン病を生きてきた自身を丸ごと知って欲しいという強い思いが伝わる。

本の中の世界がもう1つの自分の世界だった

今年、96歳になるかづゑさん。10歳で愛生園に入園。直後、軽症の入所者から激しいいじめを受ける。だが、母が見舞いに来ることで死なないですんだ。病気になって一番苦しかったのはその頃だと言う。

12歳で図書室に通うようになる。「モンテクリスト伯」が愛読書だ。作品中の地中海の街々は旅をしたように想起できるという。本の中の世界はもう一つの自分の世界でもあった。

互いに支えあいながら生きてきた夫の孝行さんは、図書室で読書に耽るかづゑさんに惹かれた。50代から執筆をはじめ、70歳でパソコンを覚え、86歳のときに「長い道」を出版する。

重い後遺症を背負いながらも生き生き暮らす

母の愛情に助けられ、本の世界に入り込み、孝行さんと互いに支え合い、愛生園での80年を振り返る。この島は天国であり、地獄だったという。

重い後遺症を背負いながらも、生き生きと暮らすかづゑさんの姿を観ていると、回復者の思いや生き方に接し、真摯に向き合うことの大切さに気付かされる。

ハンセン病問題(差別)の根深さ、厳しさが鮮明に突きつけられている映画である。

カンボジアからの風 <23>

みんなのサンタピアップハウス ついに完成!

サンタピアップが活動を始めて18年。ついに念願のサンタピアップハウスが完成しました=写真。元々、特定の活動場所を持たずに活動。2017年ごろから、村の方のご厚意で土地の一部を無償で使わせていただき、そこに廃材で作った小さな東屋を活動拠点にしてきました。



その頃から、恐怖すら感じるほどのスピードで土地開発が行われ、村の土地もみるみるうちに上がってきました。売却済みになっていく村の土地には有刺鉄線が張られもしました。いつか村に住めなくなり、子どもたちが自由に遊びまわる場所がなくなっていくのではないだろうかと思いました。

沢山の想いが詰まるハウスを笑顔溢れる場に

東屋は雨風をしのげるような作りにはなっていません。子どもたちが何の心配もなく遊べる場所を、土地

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

イスラエルによるガザ攻撃が止まない。新聞は連日、〇〇人死亡、〇〇人死亡とサラッと報じる。この約9か月間で3万8千人が死亡とも。だが、単なる死亡ではない。明らかに虐殺だ。イスラエルは人質奪還作戦で4人を救出と。でも、その作戦で274人ものパレスチナ人を殺害。完全なるジェノサイド(大量殺戮)攻撃だ。国連はイスラエルを「子どもの人権侵害国」と認定した。世界各地でも抗議の声が渦巻く。ところが、防衛省はイスラエル製の攻撃用ドローンを導入する計画だ。その輸入業者は川崎重工だ。イスラエルを支える有名企業は数多い。死の商人だ。その企業商品の不買運動も起きている。即時停戦を訴えるとともに、非人道的な政府や企業にも怒りの声を叩き付けたい。

を追われた人が一時でも安心できる場所を、貧困からくる様々な問題に耐えている子どもたちの居場所を…。そんな私たちの想いに賛同してくださった延べ394人もの方々のご支援のおかげでハウスは完成しました。

サンタピアップハウスを作るぞ! と決めてから土地を購入し、建設資金の調達となった矢先のコロナパンデミック、原材料の高騰、そして歴史的な円安…。

何度もくじけそうになりましたが、サンタピアップに想いを寄せてくださったのおかげで完成にたどり着くことができました。心から感謝いたします。たくさんのお想いが詰まったみんなのサンタピアップハウスを笑顔あふれる場所にしていけるよう、今後ともご声援をよろしくお願いいたします。



今後は日本とカンボジアの2つを拠点に活動

今夏、サンタピアップツアーを開催します。昨年は小・中学生6人を含む17人のツアーでした。ハウスでカンボジアの人たちと交流できる内容を考えていますので、参加希望の方はご連絡をお願いします。

最後になりますが、私はこの度、日本に帰国することにしました。今後はカンボジアと日本を拠点に活動していくこととなります。日本では、これまで以上にカンボジアのことを知っていただく活動に力を入れていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

今後の活動予定は7月5日～8月2日、カンボジアからの風展@三宅町・あざさ苑内みそら屋。8月13日～18日、サンタピアップツアー。10月5～19日、カンボジアハンドメイド展@シサム工房京都裏寺店です。

(NPO法人サンタピアップ代表・古川沙樹)

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail: info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/